

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道1414号線	9	L=50m	8	L=50m	変更なし	—	●	
道路	市道1420号線 (馬町細街路)	27	L=170m	27	L=170m	変更なし	—	●	
道路	市道1501号線	25	L=144m	1	L=144m	震災の影響で工事中止	舗装が整備されないため、風流の空間演出が難しい。		—
道路	市道1502号線	35	L=144m	1	L=144m	震災の影響で工事中止	舗装が整備されないため、風流の空間演出が難しい。		—
道路	市道1503号線	9	L=96m	9	L=96m	変更なし	—	●	
道路	市道1504号線	119	L=215m	11	L=215m	震災の影響で工事中止	舗装が整備されないため、風流の空間演出が難しい。		—
地域生活基盤 施設	地域案内板	17	—	12	—	震災の影響で工事中止	地域案内板が整備されないため、風流の解説や、地区往来者への案内、回遊性の向上等が難しい。		—
地域生活基盤 施設	馬町広場	156	A=950㎡	156	A=950㎡	変更なし	—	●	
地域生活基盤 施設	大町防災広場	20	A=180㎡	22	A=180㎡	変更なし	—	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	街角公衆便所整備事業	12		11	整備済み	変更なし	祭事の際や来訪者に多く利用されており、地域住民(特に高齢者)にもよく利用されている。	●	
	消火施設整備事業	3	市道1420号線に消火施設2箇所を整備	3	整備済み	変更なし	消火施設が整備されたことにより、同地区の安全性は高まっている。また、防災訓練も定期的(年1回程度)に開催されるようになった。	●	
事業活用調査	事業効果分析	8		8		変更なし		●	
まちづくり 活動推進事業	都市再生整備検討協議会	6		4		変更なし			●
	まちづくり推進事業	8	景観照明整備、芭蕉御膳開発、ガイド育成、地域資源紹介	7		マップ作成は、実施しない。	マップがないことにより、まちなか回遊への誘発効果が低減することが考えられる。		—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
道路事業		須賀川駅並木町線整備事業	2,387		平成17年度～平成24年度	平成17年度～平成27年度	25、26年度の2ヶ年で歩道整備予定。27年度に舗装を整備予定	沿線住民との合意形成を実施中
下水道事業		下水道(本町・大町準幹線)整備事業	588		平成20年度～平成24年度	平成20年度～平成27年度	県道工事と合わせて実施予定	未着手

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度							あり	なし
指標1	風流満足度	%	H23～24年に当該地区で市が市民を対象にアンケート調査	-		34.3	%	50.0	%	モニタリング	39	H23	モニタリング		●
										事後評価	確定見込み	(61.2)	事後評価	△	
指標2	安全・安心満足度	%	H23～24年に当該地区で市が市民を対象にアンケート調査	-		41.2	%	60.0	%	モニタリング	41.5	H23	モニタリング		●
										事後評価	確定見込み	(100)	事後評価	△	
指標3	地区往来者数	人/年	H23～24年に芭蕉記念館の入場者数で市が計測	-		5,823	人/年	6,500	人/年	モニタリング	3248	H23	モニタリング		●
										事後評価	確定見込み	(3369)	事後評価	×	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	H24年度調査で目標値を超えているため、時間の経過と、関連事業の須賀川駅並木町線整備事業(県事業)が完了すれば、数値が上がるが見込まれるが、事業完了予定が平成27年度であり1年以内の目標達成見込みは難しい。	
指標2	H24年度の防災訓練参加後のアンケート調査では目標値を超えているため、防災公園の使い方について、情報発信を強化すれば、数値が上がるが見込まれるが、計画していた地域案内板整備が実施出来ず、また、1年以内に整備する事も困難なことから、1年以内の目標達成の見込みは難しい。	
指標3	震災後の来訪者数の回復が低調であり、芭蕉記念館が1階のみの開館となっていることから今後の伸びがあまり期待できない。 芭蕉記念館と地区整備効果の相関性が、低い可能性あり。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1	棟	・建築確認申請により申請された建物の数のうち、「まちづくり住民協定」の要素を取り入れていると考えられる建築物の数を計測する。判定は「NPO法人チャチャチャ21」が実施する。	-	-	0	棟	モニタリング			8	・景観に配慮した新築・改築等建物棟数は、地権者が「風流のまちづくり」に共感している、または協力的であると考えられるとともに、風流な町並みの向上に繋がる。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	回	・防災訓練の開催数を各町内会へ確認する。	-	-	0	回	モニタリング			2	・防災訓練の開催数は、防災公園の周知と被災時の備えになることから、ソフト面での安全・安心意識の向上に繋がるものである。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標3	回	・「結の辻」を利用した地域活動開催数	-	-	0	回/年	モニタリング			42	・「結の辻」を利用した地域活動開催数は、地区往来者数の増加に繋がる取り組みである。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標4	人/年	・芭蕉記念館の入り込み客数を計測する。	-	-	10,269	人/年	モニタリング			4,991	・芭蕉記念館を訪れる団体客もまちなかの商店街と連携すると、将来の地区往来者になる可能性があるため。
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

馬町広場の利用者のまちづくりに関する関心は高まっている。
 結の辻(馬町広場)は震災時の一時避難場所として非常に役立った。また、災害時に広場内の井戸水が役立ったことから、井戸水の利活用や次世代への継承についての関心も高まっていると思われる。
 結の辻(馬町広場)の利用者が、区内住民だけでなく、地区外の利用者も増加していることから、地域間交流も活性化していると思われる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
アンケート調査と統計書によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】:H23年度に1回 【実施時期】:2月 【実施結果】:風流満足度39.0%、安全・安心満足度41.5%、地区往来者数3,248人	地区往来者数は芭蕉記念館来館者数により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
須賀川市ふるさとづくり支援事業による「ふるさと学習ツアー」の開催 景観まちづくり委託業務による景観照明の研究開発	予定どおり実施した	● NPO法人チャチャチャ21が主体となって、H21年に景観照明の開発及びふるさと学習ツアーを実施した。それにより住民の「魅せるための照明」への意識が高まり、軒行灯の設置者が増え、また、既に設置している方はきちんと点灯するようになった。さらに住民によって辻行灯が作製・設置され、地区内の風流度を向上させている。	景観照明は、地区住民が新・改築する際に軒行灯を設置するよう推進していく。蔵は、修復・保全する際の助成金(条例)を策定する方向で検討中。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
風流祭り(H21～H24)、奥州須賀川宿 打ち水大作戦の実施	予定どおり実施した	● 年2回、8月と10月に実施	現在、風流祭りは、「きうり天王祭」と同日(7月)に開催を継続しており、地元にも根付いてきている。今後は、震災後開催されていない打ち水大作戦を芭蕉まつり等で実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
南部地区地域づくり懇談会(H20年度)	予定どおり実施した	● 結の辻の基本的な配置、導入施設をワークショップ方式で検討した。(全6回開催) 地元意見を取り入れた施設の導入や配置により、「自分たちの広場」という意識が芽生え、住民が自主的に維持管理に参加している。	第2期計画策定を検討していることから、今後も住民との協働により計画実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
納涼祭や防災訓練等の開催	予定どおり実施した	● 結の辻での納涼祭の開催や、エリア内のポケットパークと道路の一部を通行止めにして野点や俳句会などを実施し、地域間・世代間交流が図られた。 結の辻が整備されたことにより、今まで一度も行ったことの無い防災訓練を開催し、地域防災の意識向上につながった。	今後も住民主体で継続していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
都市再生整備検討協議会を存続させて、 官民協働のまちづくりを目指す。	予定どおり実施した	● 検討委員会のメンバーを核に、これまでまちづくり活動を行ってきた「NPO法人チャチャチャ21」と「『風流のまち』創出プロジェクト」、及び「本町商店会」を入れることにより、組織的に取り組んでいく予定である。	未定	各種団体とはこれまで通り協働でまちづくり活動を行っていくが、検討委員会メンバー及び「NPO法人チャチャチャ21」と「風流のまち創出プロジェクト」、「本町商店会」が一体となって活動出来る体制づくりを行っていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 震災後、災害復旧を最優先に進めることとなったことから、第2期計画の実施時期が確定していなかったため)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
(仮称)須賀川南部地区都市再生整備計画事後評価検討会議	都市整備課、商工労政課(商業振興関係)、観光交流課(観光客誘致関係)、文化・スポーツ課(芭蕉関係)、生活課(防災関係)、道路河川課(道路・防災関係) 下水道課(住環境関係)、建築住宅課(住宅関係)	平成24年10月22日 平成25年 2月22日 平成25年 3月21日	都市整備課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2					
指標名		風流満足度		安全・安心満足度					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業 市道1414号線	◎	舗装の整備、結の辻(馬町広場)の整備、イベントの開催などが影響していると考えられる。また、建物等の施設は「風流」をコンセプトに和風を基調として整備したことによりエリア内の景観向上に貢献した。しかし、震災の影響により蔵などの赴きある建物が多く倒壊し、現在はあまり高い結果となっていない。	◎	一部の場所では、防災公園が出来たことや防火水槽・消火施設が整備されたことにより、安全・安心の満足度は向上しているが、東日本大震災時の情報発信体制について不満が多かった事が、全体としては低い評価値となっていました。				
	道路事業 市道1420号線(馬町細街路)	◎		◎					
	道路事業 市道1501号線	△		△					
	道路事業 市道1502号線	△		△					
	道路事業 市道1503号線	◎		◎					
	道路事業 市道1504号線	△		△					
	地域生活基盤施設事業 地域案内板	△		△					
	地域生活基盤施設事業 馬町広場	◎		◎					
地域生活基盤施設事業 大町防災広場	○	○							
提案事業	地域創造支援事業 街角公衆便所整備事業	○				◎			
	地域創造支援事業 消火施設整備事業	○		◎					
	事業活用調査 事業効果分析	—		—					
	まちづくり活動推進事業 都市再生整備検討協議会	○		—					
関連事業	まちづくり活動推進事業 まちづくり推進事業	○		○					
	道路事業 須賀川駅並木町線整備事業	○		—					
	下水道事業 下水道(本町・大町準幹線)整備事業	—		—					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2		
	結の辻(馬町広場)や各地域資源を活用した「風流」を感じる空間演出やイベント等を増やす必要がある。	整備した施設の機能を地域住民に広く情報発信する必要がある。また、避難訓練や防災訓練を今後も継続して実施し、住民意識を高めていく取り組みが必要である。		

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標4			指標5			指標6		
指標名		地区往来者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路事業 市道1414号線	○	震災の影響及び観光の核となる芭蕉記念館が被災した事により地区往来者数が激減してしまった。一方で、団体の利用者は徐々に増加傾向にあることから、外部からは風流なまちとして認知度が上がっていると伺える。										
	道路事業 市道1420号線(馬町細街路)	○											
	道路事業 市道1501号線	△											
	道路事業 市道1502号線	△											
	道路事業 市道1503号線	○											
	道路事業 市道1504号線	△											
	地域生活基盤施設事業 地域案内板	△											
地域生活基盤施設事業 馬町広場	◎												
地域生活基盤施設事業 大町防災広場	○												
地域創造支援事業 街角公衆便所整備事業	◎												
地域創造支援事業 消火施設整備事業	△												
事業活用調査 事業効果分析	○												
まちづくり活動推進事業 都市再生整備検討協議会	○												
まちづくり活動推進事業 まちづくり推進事業	◎												
関連事業	道路事業 須賀川駅並木町線整備事業	△											
	下水道事業 下水道(本町・大町準幹線)整備事業	△											

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	被災した芭蕉記念館の機能回復及び芭蕉記念館を基点としたイベントを開催し、一般利用者を増やす。また、地区内のイベント開催や芭蕉記念館の展示内容の更新など、随時新しい情報を発信する事により、地区往来者数を増やす。まちなかへ誘導するようなチラシやクーポン券の発行なども考えられる。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
(仮称)須賀川南部地区都市再生整備計画事後評価検討会議	都市整備課、商工労政課(商業振興関係)、観光交流課(観光客誘致関係)、文化・スポーツ課(芭蕉関係)、生活課(防災関係)、道路河川課(道路・防災関係)下水道課(住環境関係)、建築住宅課(住環境関係)	平成24年10月22日 平成25年 2月22日 平成25年 3月21日	都市整備課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
高齢化の進展に配慮して、住み続けられるように、地区生活の安全性・快適性の確保	結の辻(馬町広場)が整備されたことにより地域住民の憩いの空間を確保することが出来た。また、防災施設が整備されたことにより、震災時に生活水の供給等に役立った。	現在、広場施設の機能や利用方法についてまだ一部の人間しか理解していないため、更なる施設の整備内容及び利用方法の周知を図り、災害時には誰もが防災広場を活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の影響で県外からの来訪者が少なくなったことにより、地区内の来訪者も激減している。このため風評被害の払拭と南部地区に来訪者を呼び込む施策が必要となっている。 ・震災により、蔵などの歴史的建造物が被災し、修理するか取り壊すか迷っている地権者が多い。蔵等を取り壊してしまうと地域資源がなくなるため、対策を施す必要がある。(市で助成制度の紹介や市の支援制度をつくり、今後も支援していく予定である。) ・案内看板とマップは整備していないため、地域を案内する手段が脆弱である。(町の案内人育成事業は実施したが、今後も案内人育成等のソフト展開が必要である。) ・医療・福祉に関するサービスの向上が求められている。
地域資源のネットワーク化と広域的な交流機能強化、地域文化の継承と発信	当該地区内の地域資源が道路改修により一部、ネットワーク化が進んだ。また、交流拠点として結の辻(馬町広場)が整備されたことにより、芭蕉まつりなどの各種イベントを通じて地域文化の継承と発信が進展した。	地域案内板とエリアマップが未整備のため、地域資源の魅力を伝える手段が弱い。回遊性を高めるソフト展開が必要である。	
地区全体の賑わいの再生と交流が図られる仕掛けづくり	地域拠点として整備した結の辻(馬町広場)を各種イベントの会場としたことにより、既存商店街の資料が図られ、にぎわい再生の取り組みの認知度が上がった。	さらなる交流促進と、まちの商店街の方々が住み続けられるようまちの活性化を図る必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	地区生活の安全性確保のために	施設の整備内容の周知、誰もが防災公園を活用できるように利用の仕方の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な防災訓練(年1回程度) 聞き取りにくい地域への防災無線の整備 狭隘道路の解消(拡幅)
	地域資源、文化の継承	蔵等の歴史的建造物が極力保全されるよう行政支援をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源と絡めたイベントの開催 蔵の修繕助成事業 被災した芭蕉記念館の地区内での再整備
	賑わいの再生	人が集まるよう、空家や空き地などを減らし、まちなかの賑わいを取り戻す	<ul style="list-style-type: none"> 被災した芭蕉記念館の再整備 公営住宅の整備(災害公営住宅の整備) 交流拠点を活用した各種イベントの通年開催等

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	地区生活の快適性の更なる向上(医療・福祉)	近隣施設までの利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> 市内循環バス停留所の整備 狭隘道路の解消
	凍結事業の実施	風流を感じる空間を増やすための道路改修区間の延伸	<ul style="list-style-type: none"> 未整備路線の舗装整備(市道1504号線事業についてはH26～H27年度実施予定) 地域案内板整備 エリアマップの作成
	芭蕉記念館の活用方法(再整備含む)	芭蕉記念館を核とした地域資源のPRと来訪者の呼び込み、まちなかへの誘客を一体的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉記念館の再整備(教育施設から、観光交流機能と一体となった施設に機能拡充を検討) 回遊性の向上につながるソフト事業の展開

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	風流満足度	%	34.3	H19	50.0	H24	確定 ● 見込み	39.0 (61.2)	△	あり ● なし ●			
指標2	安全・安心満足度	%	41.2	H19	60.0	H24	確定 ● 見込み	41.5 (100)	△	あり ● なし ●			
指標3	地区往来者数	人/年	5,823	H18	6,500	H24	確定 ● 見込み	3,369	×	あり ● なし ●			
その他の数値指標1	景観に配慮した新築・改築等建物棟数	棟	—	H19			確定 ● 見込み	8					
その他の数値指標2	防災訓練の開催数	回	—	H19			確定 ● 見込み	2					
その他の数値指標3	「結の辻」を利用した地域活動開催数	回	—	H19			確定 ● 見込み	38					
その他の数値指標4	芭蕉記念館の全体の入り込み客数	人/年	10,269	H18			確定 ● 見込み	4,991					

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	防災公園は役に立った。	ハード整備とソフト展開が一体となった風流の演出
	うまく いかなかった点	「風流とは何か？」を上手く伝え切れていなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	社会実験等	商店街の賑わい創出と地区往来者数カウント方法の見直し
	うまく いかなかった点	地区往来者と芭蕉記念館の関係、芭蕉記念館と整備内容を繋ぐソフト展開	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民の要望を十分反映した交流拠点整備ができた。	事業に関する広報紙(NPO作成の瓦版)の配布範囲の拡大や住民主体の参加プロセスや維持管理の形成のノウハウを役立てていく。
	うまく いかなかった点	ワークショップ・イベント等に参加していない人へ整備目的、整備内容の周知ができていない。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	モニタリングは実施した。外部からも客観的なチェックを受けた。	
	うまく いかなかった点	東日本大震災の影響により、事業が途中で中断したため、本来の評価が測定できなかった。	
その他	うまくいった点	須賀川市の中心市街地の新しい取組として期待が高い。	まちづくりとして、各組織が連携
	うまく いかなかった点	持続可能な組織づくりの課題が残る。活動主体は高齢化のため若い世代を巻き込むことが必要である。	

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

須賀川南部地区都市再生整備計画(第2期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のHPに事後評価原案を公表	平成25年6月10日(月) ～6月24日(月)	2週間	都市整備課での直接提出及び郵送・電子メール	都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌にホームページに事後評価原案が記載されている旨を周知	平成25年6月号広報			
説明会・ワークショップ	—				
その他	—				

住民の意見	特になし
-------	------

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	有賀保二(元日本大学工学部准教授) 市岡綾子(日本大学工学部建築学科)	平成24年10月22日 平成25年 3月27日	都市整備課	須賀川市南部地区都市再生整備事業評価委員会設置要綱	地元町内会、まちづくりNPO、商工会(まちづくり担当等)、有識者
その他の委員	大倉秀夫(本町町内会長)、添田弘(馬町町内会長)、鈴木元(大町町内会長)、佐藤富二(八幡町町内会長)、高久田稔(NPO法人チャチャチャ21理事長)、根元信二(風流のまち創出プロジェクト委員長)、飛木佳奈((社)福島県建築士会)、菊池大介(須賀川商工会議所青年部長)、堀江祐介(商店会連合会会長)、景山草子(福島県開発審査会)、渡辺達雄(須賀川まちづくり推進協議会ワーキング委員長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	特になし。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案は、市民に分かりやすく実施されたことが確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし。
	フォローアップ	特になし。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--